



各所のお大師様に法楽をあげる



先達の僧侶と共に記念撮影

高尾山内八十八大師巡り

十月十一日、高尾山内八十八大師巡りが行われ、およそ三十名の方々が参加され、高尾山の自然のなかをゆっくり巡拝し、お大師様との御縁を結ばれました。

行程は清滝周辺のお大師様から始まり、先達の僧侶とともに高尾梅郷等を通り、蛇滝経由で徒歩練行を行い、高尾山の歴史を学びながら、道中の各お大師様に法楽をあげました。

山上に到着し、大本堂にて御護摩供修行に参加された後に、大師堂周辺の八十八大師御砂踏み霊場を巡りました。精進料理の昼食後には、二号路の各お大師様を山麓まで巡拝し、無事に不動院に到着しました。

興性寺御見舞い活動支援金 高尾山に御礼状届く

時下益々清栄にて、二利御双修のこととお慶び申し上げます。さて、拙寺の「被災地仮設住宅御暮らし者第十四期御見舞い活動」に対して多額の御支援金を賜り、厚く御礼申し上げます。

その際には、御多用のところを貴山職員様二名を派遣していただき重ねて御礼申し上げます。お二人には七カ所の仮設住宅集会所において、殉難者の慰霊法要、復興祈願法要を行い、被災された方々を元気づけるご法話を頂戴して頂きまして、皆様より大変ありがたいと感謝されました。

約九百件の仮設住宅を訪問しましたが、被災者の方々も以前より大分お元氣を取り戻してこられた様子で、幾分ほつとする反面、仮設住宅に残された方々は、公営住宅に入居申請することもできないような方々で、残されたものの悲哀の様な感情も見受けられ、表面の復興とはまた違った深い問題を感じさせられたところでございます。

さらには、このたび当地などを襲った台風第十号による被災者救援、御見舞い活動に対しても重ねて多額の御支援金を賜り、深く感謝申し上げます。近日中午に岩泉町など台風被災地を訪問して、被災者を元気づける活動を行ってまいります。

今後ともご理解とご法縁をお願い申し上げますと共に、貴台の御健勝と、貴山益々の御隆昌を祈り、御礼の御挨拶と致します。

平成二十八年九月二十三日

興性寺 住職 司東和光

合掌

一刻も早い復興を祈る

法務課 五頭 寛玄



司東御住職に義援金を託す(筆者右端)

去る平成二十八年九月九日より十一日までの三日間、岩手県奥州市江刺区・真言宗智山派興性寺(司東和光御住職主催)による、岩手県仮設住宅お見舞い活動に、飯沢隆秀法務課員と共に参加致しました。

この活動は東日本大震災以降、司東御住職を中心として、副住職や寺院婦人、檀信徒の方々と共に、陸前高田市、大船渡市、釜石市、大槌町などの各仮設住宅を二軒一軒回り、お見舞い品を直接手渡ししながら、被災された方々を励ます活動であります。

今回、高尾山の境内に置かれております義援金箱に、多くの方々からお寄せ頂きました義援金を被災地にお届けさせて頂きました。

興性寺本堂内で義援金授与式を執り行った後、お見舞いの品を車に積み込み、被災地の仮設住宅に向けて出発致しました。仮設住宅に到着後、敷地内で、これからの生活でここにお住まいの方々が健康に、そしてより豊かな生活が送れるようにと願いを込めて法螺貝を立てさせて頂きました。

その後、仮設住宅を一軒一軒訪問させて頂くと、「わざわざ遠い所から来てくれて有り難う。本当にうれしいよ。」と涙ながらに感謝のお言葉を頂きました。

恥ずかしながら自分、東日本大震災が起ってから初めて東北の地を訪れ、実際に被災地の現状を目の当たりにして、衝撃を受けました。仮設住宅の集会所で「被災地の復興は徐々に進んでいる」とは被災された方々からお聞きしましたが、かさ上げされた土地はまだ更地のところが多く、「防波堤ができて海が見えなくなつて怖い」という声などもお聞きし、被災地の復興というのはまだまだ程遠いと感じました。

大震災から五年半が経ちますが、被災地の復興は未だこのような状況でございます。高尾山薬王院では日々、一刻も早い被災地の復興祈願と被災された方々の身上安全を

お祈りしております。私には祈ることしかできませんが、被災地で見たいこと、聞いたことを心にしつかりと受け止めていきたいと思っております。

「被災地の人々はこの大震災で起きたことが風化するのが一番つらい」と仰つておりました。年が経つことに記憶というものは薄れていくものでござ



被災された皆様と出会い、復興の状況をお聞きました。

ざいですが、私たちはこの東日本大震災の出来事をしっかりと記憶に留め、皆様方に被災地の状況を伝えていきたいと思っております。

被災された方々の心が穏やかに、また、これからの生活がより豊かになるようにお祈りしていきます。

一心祈願 復興成就